

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2013年 2 月 23日

派遣者氏名（専門分野）	上原 真依 (西洋美術史)
-------------	--------------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	19世紀イタリアにおける、ルネサンス期祭壇画の流通と再構成 カルロ・クリヴェッリ作《ファブリアーノ祭壇画》をめぐって
-------	---

派遣期間

2012年 6月 6日 ～ 2012年 8月 5日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	イタリア	ミラノ	ミラノ美術図書館 ミラノ市立中央図書館 ブレラ絵画館附属アーカイヴ ミラノ国立古文書館	なし なし Amalia Pacia なし
		モンツァ	モンツァ公立古文書館	なし
		フィレンツェ	フィレンツェ国立図書館 モレニアーナ図書館	なし なし
		ファブリアーノ	ファブリアーノ公立図書館 アンコーナ国立古文書館（ファブリアーノ分室）	Barbara Zenobi なし
		カメリーノ	カメリーノ司教区古文書館	Luca Barbini
		ローマ	ローマ国立古文書館 ローマ国立中央古文書館	なし なし

派遣先で実施した研究内容

派遣者は、ヴェネツィア出身の画家カルロ・クリヴェッリが15世紀後半に制作した祭壇画群を研究している。ほとんどの祭壇画は長らく聖堂などに放置されていたが、19世紀にその市場価値が「発見」され始めると、次々に解体され、世界中に売却されていった。先行研究ではバラバラになった祭壇画パネルの大きさや様式、祭壇画制作時の契約書をもとに再構成案が示されてきたが、いくつかの祭壇画では未だに本来の祭壇画の姿は判明していない。本研究は、これまで多分に看過されてきた、祭壇画の売却記録や美術館における所蔵記録など、流通と展示に関わる19世紀の資料群に注目し、その分解と再構成展示の過程を明らかにすることで、祭壇画再構成の新たな手がかりを獲得しようとするものである。

今回の派遣では、マルケ地方の町ファブリアーノのために制作された祭壇画の流過程に注目し、その展示・売買に関する19世紀の記録を上述の12館で実見・収集した。祭壇画の目撃証言、絵画館に譲渡された際の遺言状、数年おきに展示替えされた絵画館のカタログを調査するため、イタリア各地の図書館・古文書館を調査することになったが、ファブリアーノ由来の祭壇画が19世紀にどう流通し展示されたかを解明するという当初の派遣目的はほぼ達成できたと考えられる。

裏面に続く

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

カルロ・クリヴェッリは、1493年ファブリアーノのサン・フランチェスコ聖堂のために祭壇画を数点制作した。そのうちの一点は現在ミラノのブレラ絵画館が所蔵する2枚のパネルを含む祭壇画（右図参照）とされている。両パネルはサイズの類似と1490年ファブリアーノで交わされた契約書で「ピエタと聖母戴冠を描く」と記載されたことを根拠に、常に同一祭壇画であると考えられてきた。

しかし、申請者は今回の文献調査で、1836年ローマに提出された作品の国家買上げ申請書（未刊行史料、ローマ国立古文書館）には上部パネル《ピエタ》に関する記載がないことを確認し、ファブリアーノのコレクターによる19世紀前半の目撃証言（未刊行手稿）にも《ピエタ》に関する記述がないことを確認した。さらに、ブレラ絵画館に祭壇画を遺贈したピエトロ・オッジョーニの遺言書（1855年、未刊行史料、モンツァ公立古文書館）では、祭壇画のパネル2枚が別々に記録されていたことも判明した。さらに各地の図書館が所蔵するブレラ絵画館カタログ（1855～1910年）を調査し、展示状況を復元した結果、1872年以前に2枚のパネルが組み合わされ同一祭壇画とされていたことが明らかになった。残念ながら当初計画していた額縁を外しての祭壇画パネル調査は実現できなかったが、イタリア各地で実見した史料から、少なくともブレラ絵画館に入るまで、2枚のパネルは別々に展示されていた可能性は非常に高い。これらの史料群は、19世紀におけるパネルの記録を調査し流通時の状態を明らかにするものであり、祭壇画の原状を探る大きな手掛かりとなると考えられる。

派遣後の研究発表の予定

派遣者は、今回の派遣で得た知見をもとに2013年夏にイタリア、マチェラータ大学のゼミで調査報告を行うと同時に、成果を論文にまとめて2013年度『民族藝術』第30号に投稿予定である。